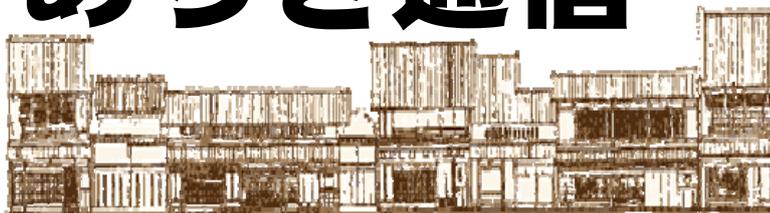


あらかき通信



(株)アラクキ工務店 編集・発行 村上 幸男

〒615-0906 京都市右京区梅津高畝町 52-2

Tel 075-882-8668 Fax 075-872-0223

<http://www.kyoto-araki.jp/>

info@kyoto-kozai.com

初夏になりました。真夏日が続いたと思ったら、次には朝夕涼しくてひんやりして、こんな気持ちのいい季節は今だけと実感しています。

春先から京都にも観光客が多数こられて、八坂神社近辺はレンタル着物を着て観光されています。時には男性も着物姿で歩かれますが、やはり鼻緒のある履物は歩きにくいんでしょうか、普通の靴でという方も多いですね。雰囲気だけでも感じてもらえればいいですね。

祇園近辺に現場があり、周辺にはレンタル着物店があちこちにあります。着付けの終わった女性が店から出てこられ、着崩れしないうちに、写真撮影をされているのを時々見かけます。多くは花や幾何学模様で大きな柄です。ちょっと柄が大きすぎないかと思ったりするのですが、現場の通り道にある店をち



よっと覗くと、展示してある着物がほとんどそういった柄なので、これはお客さんの好みを反映しているのだなと納得してしまいました。

これから京都は祇園祭や地域の夏祭りがあり、浴衣姿の女性が多く見られます。男性の浴衣姿も少しは見られますが少ないですね。

観光客に負けないで、今年は一度ぐらい浴衣でお出かけしてみたいはいかがでしょうか。

荒木 勇

NHK WORLD TV 「Core Kyoto」の取材

伝統的な京町家の灰汁洗いをしている風景の取材がしたいとの事。外国の方には珍しいお仕事なのかもしれません。6月1日に放映されたようです。日本では放送されませんでした。インターネットで観る事ができました。弊社というよりは、むしろ洗い屋さんが主人公という番組。でも、現場監督の松原君や、お施主様も着物で登場され、いい記念になりました。



葺の屋根に雑草が生えている

葺を含む母屋の改修工事後の点検で、お施主様から「葺の屋根に雑草が生えているので始末してほしい」とのご希望があり、現場を見に行きました。右の写真は隣家の二階（御身内の方の借家）から見たものです。先だっの工事で葺の屋根前半分を葺き直したのですが、後ろ半分は次回に行くことにしていました。その古いほうの屋根に雑草が生えている。遅しいけど迷惑な話で屋根工事業者にとってもらおうと連絡しました。



フビンガ 床の間材

某改修工事現場の玄関です。玄関入って正面に小さな床の間を取り付けています。材種は熱帯雨林地方で採れるフビンガです。硬くて加工に時間がかかる材料ですが、深みのある赤黒い色が特徴で、独特の美しさがあります。

玄関の大人しい空間の中で唯一鮮烈な色合いです。何も置かなくてもこれだけで十分な景色となっているなど自賛しています。



各現場監督のコーナー

■テラスと塀を木で作る

弊社は、大工さんのいる工務店なので、なるべく塀は木で作りたいと考えています。今回は、ブロックを2段積みし、その内側に、アルミの角パイプを柱にして地面に埋め込み、それに横向けに木を打ちました。木は仕上がっていない節のある手頃なホワイトウッドという外材です。塗装は、お客さんがされるということで、省いています。

また、右端の扉は重くならないように波板で簡単にし、雨ざらしなので、腐って垂れてこないように筋交いを付けました。

木の塀はアルミやブロックの塀より、耐久性は悪いですが、見た目は柔らかく気持ちいいです。生け垣にすればもっと良いのですが、場所をとると、維持するのが大変です。それで、木の塀が採用されました。

テラスの床も木製です。さすがに、テラスは、地面に近いので何もしないと腐ります。予算があれば、レッドシダーや栗を使いますが、今回は、手頃な、防腐剤入の桧を使いました。アレルギーが心配されましたが今のところ問題ないようです。

荒木 智



■RICOH GR II

今回は工事ではなく、趣味のカメラについてお話をさせていただきます。
愛用している機種は、RICOH の GR II というコンパクトデジカメです。

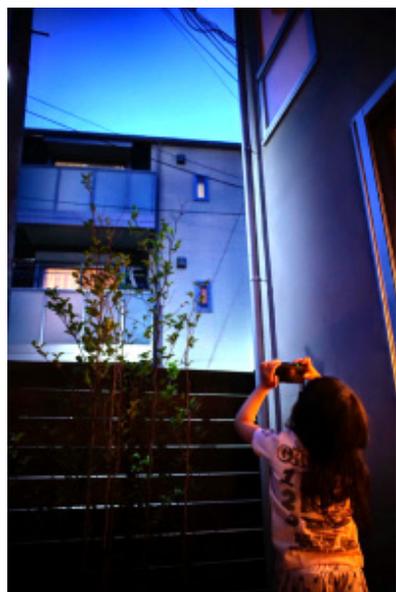
魅力はなんといっても、設定や画質を自分好みにいろいろと変えながら楽しめるオリジナリティーと、そこから得られる高い解像力にあります。そして何より一番気に入っているのは、以前からのシリーズを踏襲したミニマルなデザインです。とてもカッコ良く、所有していることだけで満足できる存在です。

GR2 の外観はブラックが基本なのですが、世界 3,200 台限定のシルバー色を入手することができました（昔から限定品という言葉に弱いのです）。

撮影の対象ですが、最近はおっぱら子供の写真が多いです。

休みの日には、ちびまるこちゃんの友達のお父さんみたいに、何処へ行くにもカメラを持ち歩き、好きなタイミングで撮影しています。そんな姿を見てか、最近娘も写真に興味を示すようになりました。自分の見たままの世界を切りとれるのが楽しいようです。そういう自然な環境で写真に興味を持ってくると、この先また違った楽しみが見つかりそうです。またどこかでお気に入りの写真をご覧頂けるよう腕を磨いておきますのでご期待下さい。

米沢 和也



■京町家の座敷を改装

京町家の座敷をお茶席が開けるように改装させていただきました。もともと綺麗な状態で座敷の化粧材が残っていたので、それら古いものを活かしています。釜を吊る蛭釘などは天井裏で補強材を入れて取付けました(写真右)。



小さなお茶室とは違い、築90年以上の大きな町家の躯体では平行や直角の精度がよく

出ていないため、畳の職人さんと相談しながら、畳の網み目の並びが大切になる手前座の畳を優先しつつ、炉や他の畳とのバランスを考慮しながら全体の割り付けを決めていきました(写真左)。

土壁下部への腰紙貼りや、石垣貼りをする障子への和紙の割り付けも、流派で好まれる流儀から外れないように、表具屋さんにも仕事をしてもらいました。

いろいろな職人さんの工夫が合わさって、落ち着いた座敷に仕上げることができました。

松原 豊

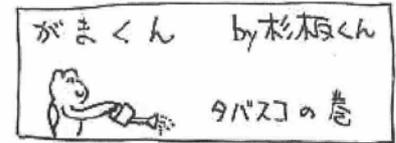


■京町家新築工事

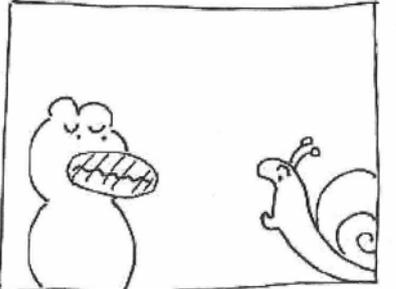
新築とはいっても、在来軸組工法ではなく【時代の再現】に力点を置いているので、使用材料や納まりなど一切妥協する事なく【本物】を新築。総二階や厨子二階、虫籠窓に駒寄、糸屋格子に米屋格子などいろんな意匠を再現。某【〇〇村】のような【遠目にみるとなんとなく本物だが、近くで見ると贋物】といった代物ではなく、近くでみても【本物】を製作。町家の改修や再生に日々精進している者として、このような【京町家の新築】ができる機会はそう多くない。

絶好の機会を与えて頂いた関係者の皆様に感謝し、また、京都の町並みを整えてきた先代、先々代の棟梁たちに思いを馳せながら関係者一同、プロジェクトの成功に向けて邁進する所存です。

小野 敏明



—— つぎの日 ——



社長の嬉しい出来事

お施主さんが、工事中の写真をご自宅のリビングに飾ってくれました♪古い民家の場合、足元が腐っていたり、一つ石が沈んでいたり、柱が傾いていたことがよくあります。今回も基礎や構造から直させていただいたのですが、その「見えない部分」の写真を、図面と解説入りで掲載頂き、大変嬉しかったです。



住まいについてのいろいろな話し 第 20 回

木造建築では、似たような名前だけど仕事内容が別物の工事がああります。洗い屋さんと掃除屋さん。どちらも最終的には綺麗にする作業なのですが、手法はまるで違います。それぞれ使う薬品や道具も違うので詳しく述べてみます。

●洗い屋さん

アク洗いとも言います。木造住宅の無垢材の経年の汚れや油などを道具と薬剤を使って抜き取ります。経験だけが頼りの数値化できない作業です。

あくまでも無垢材が対象で、工事中についた大工さんの手の油や左官塗りの土の汚れ等を「ササラ」という道具で洗います。竹を細く裂いて作ったもので、簡単に言えば刷毛を竹で作ったようなものです。

新築物件は簡単なのですが、これが何十年と経った家の洗いは染み抜きと汚れ落とし、それに日焼けの回復も同時に行います。使うものは、苛性ソーダなどのアルカリ剤とシュウ酸や塩酸の酸性剤です。

まず苛性ソーダのアルカリ剤を使い「ササラ」にて汚れを落とします。これは漂白剤なので色も白くなっていきます。程よいところで進行を止めるには酸性剤のシュウ酸や塩酸の希釈水にて中和します。難しいのはこの酸性剤を塗っても進行はしばらく続くので何分後かの進行を予想しなければなりません。これは経験だけがなせるもので、木の種類や汚れ方、年月など同じ現場は無いので目で見て判断するだけです。中和して進行が止まったら薬剤を水洗いで洗い流します。ここで大変なのは天井洗いで、上を向いての作業なので合羽を着ます。

余談ですが、洗いさんは経験が全てですから親方の下で経験をつみます。独学では無理で、その後独立して仕事をするのですが、親方との関係は続き、どこで修行したかで系統がわかります。「何々の親方のところで修行しました」と聞くと、アア あそこ出身ね。と知っていることが多いです。

洗いさん、昔は、手桶にササラを持ち履物は雪駄履きの人多くて、ちょっと粋な格好でした。

●掃除屋さん

建築工事で一番最後の工程が掃除屋さんです。新築や増築、改修や改造を問わず、最後にこの工事を行いお引渡しとなります。

この業者が入る前には、養生材を大工が全て取り払い、掃除機等でざっと掃除します。その後この業者が入り、埃払い→掃除機掛け→拭き掃除→ワックス掛けまで行き、明日から住める状態までに仕上げます。この仕事の出来具合で見栄えがだいぶ違います。ただ、小規模の工事の場合は大工がその代わりをすることもよくあります。ですから弊社でもアク洗い剤を常備しています。

掃除さんは最後ですから養生材も包み紙もすべて無いので、工事の不具合やキズ、やり残し工事や忘れ工事をよく見つけて報告してくれます。言われて初めて気づくことも何回かあり、助かりました。

ただ床塗装がある場合は掃除後に床塗り塗装を行います。30年以上前は畳のゴザ（畳表）が変色しないように泥の中につけてあったので、表面に泥が付いて乾き、白くなっていたものでした。昔はこれも掃除したのですが、今は掃除済みのゴザで畳を作るので、畳も掃除後に入れます。入ってから簡単に拭きます。掃除さんは、プラスチックのバケツに履物は安全靴なので、昔日の面影が無いのが残念ですね。



ササラ



村上

京都市から認定を受けました！

社会的課題解決に寄与する企業の成長と発展を支援する第2回「これからの1000年を紡ぐ企業認定」を受けました。

審査は半年にも及び、従業員さんへのヒアリング、仕入先への調査、著名な審査委員さんたちの前でのプレゼンを経て、いただくことができました。

「歴史的な町並や京町家等の保全」という課題に弊社が取り組む姿勢が評価されたようです。

後世に京町家を残すには、「外観だけのハリボテ町家」ではなく、構造からしっかりと直さなければなりません。そのためには、職人さんの育成が大切だと訴えたのがよかったのかも。

京都市さんから支援を受けられるようで、心まことにしています。



編集後記

1週間前に、グーグルのストリートビューの撮影車と遭遇しました。横道から出てきて前を走り、すぐまた横道に入りました。2回目です。1回目は配信される前、そのときはあきらかに撮影カメラとわかるものを乗用車の屋根につけていたのですが、今回はサッカーボール状の球体にいくつもの穴？があり内部にカメラが仕込んであるのでしょうかカメラが見えません。前後左右、同時撮影しているのでしょうか。進化しているな～と感心しました。また更新を重ねている地味な努力にも感心しました。ナカナカ遭遇しない車に出会ったので、今日についてはいいのか？と少々嬉しくなりました。単純だな～

村上

見習大工さん 今年は二人入社です



2人とも遠くから、親元を離れてきてくれました。しっかりと育つよう、皆で応援しています。

高倉 岬君 (たかくら みさき) 熊本出身



以前は2×4工法での建方をやっていたのですが、技術を身につけて、しっかりとした大工になりたいと思い、アラキ工務店に入社致しました。早く仕事を覚えられるように頑張ります。

鹿又 賢稀君 (かのまた まさき) 福島出身



磐木市から上京して3ヶ月。すごく大変ですが、楽しいです。何でも教えてもらえます。一番頑張らないといけなひのは運転です。取得して間もないので、早く慣れていきたいです。

今年も新入社員が2人 お互い励ましあって成長してほしい！

今年も新人2名入ってもらうことになりました。新人君は1年目の夏がかなりしんどくて、体調を壊さないか毎年心配しています。

食事をしっかりと食べなさい、睡眠は十分取りなさいと常に言っています。これを無事乗り切ると体が出来てその後がうんと楽になります。

学生の体から、社会人の体になり、力もつきます。これからは楽しみですね。